

「黄金色の輝き、金箔と金泥」を楽しむ基礎知識

★金箔（きんぱく）★

金箔とは、金を叩いて延ばしたもの。純金だけでは軟らかすぎるため、少量の銀や銅を混ぜて作るのが一般的。銀や銅の含有率によって色味が変わり、銀の含有率が高く青みを帯びた金を「青金（あおきん）」、銅の含有率が高く赤みを帯びた金を「赤金（あかきん）」と言う。

画面上に箔を貼ることを「箔押し」という。金箔を貼る場所には、あらかじめドーサ液を塗っておきます。

※ドーサ液とは膠（にかわ）とミョウバンを混ぜた水溶液



★金泥（きんでい）★

金泥とは、金箔を粉状にしたものを薄い膠液（にかわえき）で溶いた絵の具のこと。



★砂子（すなご）★

砂子とは、竹製の筒の片側に金網を張った砂子筒に箔を入れ、筆でかき回すことで細かく砂状にしたもの。金網の網目の大きさにより砂子の粒の大きさが変化する。砂子を撒く場所には、あらかじめドーサ液を塗っておきます。



★揉み紙（もみがみ）★

揉み紙とは、和紙を揉んで皺（しわ）をつけたもの。和紙に絵具を塗り、乾燥後に紙を揉むことでヒビ割れた箇所絵具が剥がれ、独特の絵肌を作ることが出来る。絵の下地を作る作業のひとつ。



★截金（きりかね）★

截金とは、金などの箔を数枚焼き重ね、細い線状に切ったものを張り付けて模様を描く技法のこと。



別紙、「知ったらもっと楽しくなる★日本画の基礎知識★」も参考にしてくださいね！